

平成27年度自己評価表（年度当初）

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。	今年度の 重点目標	1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立 ・挨拶の励行と掃除等の取組み指導（声かけ等）を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ・特にS H R時の担任の話を大切に。・様々な教育活動の中で、自他を愛し、人権を尊重する意識を高め育む。 2. 学力向上による進路の実現 ・授業の大切さ（学ぶことの大切さ）と進路保障、特に授業参観等で各教科の授業研究を進める。 ・目的別クラス編成を軸にした授業内容や展開方法を工夫し、生徒が理解しやすい指導を行う。 ・明確な進路意識を持たせ、3年間を見通した指導を行う。 3. 部活動などの教育活動の振興 ・県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信する。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加する。また、部活動参加をオープンにし、地域の生徒の指導にあたる。 ・生活指導と併進して教育活動をさらに活性化。・学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたる。
	校訓 「文武両道」「質実剛健」		

年 度 当 初					評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状（26年度の実績をもとに）	目標（27年度の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立	○挨拶の励行、服装・清掃指導等を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ○自他を愛し、人権を尊重する意識を高める。	○生徒指導に対して、教職員の共通理解が不足しており、指導にかなり差が見られた。 ○遅刻・欠席の多い生徒に対する指導は、学年・生徒部・保健部などでよく連携がとれ、早めの指導が行われている。 ○挨拶は気持ちよく出来ている。服装もきちんと整えている。 ○相変わらずチャイム後に教科書等をロッカーに取りに行く姿が見受けられた。 ○人権教育L H Rでの話し合いが、学校生活の色々な場での実践になかなか繋がっていない。	○頭髮服装の違反者・遅刻者が減少する。 ○生徒同士、生徒・教員間の挨拶が日常的に行われる。 ○学習時間を含め、一日の規則正しい生活習慣が確立する。 ○自分と他者とのより良い関係について考え、自他を大切に。する意識が高まる。	○常日頃から教職員全員で共通理解の下で、「見てすぐ注意・指導」を実践する。 ○自然なコミュニケーションとしての挨拶・礼儀・態度が身につくように継続して指導していく。 ○今後も5分前行動を継続していく。 ○生活時間調査を定期的に行い随時指導していく。 ○より良い人間関係を築くためのソーシャルスキルトレーニングの実施を検討する。 ○人権教育L H Rだけで終わらせるのではなく、常日頃から学校生活の問題点について考えさせるようにする。			
	○環境改善や校内美化に対する意識を高める。	○12月末現在(H25年同期比) 電力使用量 7.2%減 可燃ゴミ排出量 5.2%減 ○教室のゴミの分別はできているが、選択教室は不十分である。 ○夏季のエアコンについて、使用規程を徹底する必要がある。	○電気使用量の25年度比1 %減(26年度から3年間で5 %減)、可燃ゴミ排出量の25年度比3 %減(26年度から3年間で10%減)を達成する。 ○ゴミの分別を徹底する。	○ゴミの分別・減量、電力削減に対する意義を理解させるように、啓発していく。 ○年度当初に、ゴミの分別ルールを生徒に分かりやすく説明する。 ○個人ロッカーの使い方について個別に指導する。			
2. 学力向上による進路実現	○授業研究を進め、希望する進路実現に繋がる学力を引き上げる。	○11月進研模試全国偏差値50以上人数 1年:国38,数18,英28 2年:国39,数36,英26 3年:国13,数 8,英16 ○授業や講習で模試対策はなされているが、結果についての反省・分析が不十分である。 ○各教科で研究授業を実施し、授業改革に努めた。	○全国模試において、国語・数学・英語の各教科で全国偏差値50以上の生徒が40人以上いる。	○模試結果の分析・共有・活用を押し進める。 ○1年次に中学校の学習内容の定着を図る期間を設定し、学力の積み上げを徹底する。 ○何のために進学するのか、そのために努力するとどんないいことがあるのか、何をすべきかを喚起させるキャリア教育を適宜実施する。			
	○授業内容や授業展開を工夫し、生徒の理解度を高める。	○授業評価(12月調査)〔思う+そう思う〕 「授業の内容が理解できる」85% 「興味・関心のわく内容である」76% 「授業に総合的に満足している」86% ○生徒の実態に即した授業を目指して、各教科担任がよく工夫・努力している。	○目的別クラス編成や生徒の進路目標に応じた授業を工夫し実施する。 ○生徒の学習理解度が向上する。	○目的別クラス編成や生徒の進路目標に応じた授業を今後も継続して工夫していく。 ○多様化する生徒に合わせて、学校内における教材研究の時間を確保する。 ○家庭学習（課題）の取組みを成績に反映させる。 ○生徒の実態に応じた小テスト・課題を実施する。			
	○3年間を見通した指導により、家庭学習の習慣を確立させる。	○家庭学習時間(11月調査) 平 均 1年:142分 2年:144分 3年:146分 習熟平均 1年:256分 2年:208分 3年:255分 2時間以上 1年:51% 2年:54% 3年:52% ○「家庭学習＝定期考査前」の傾向があり、この意識の改善が必要である。	○生徒が進路意識を高め、各自の進路目標を早期に設定し効果的に取り組ませる。 ○生徒の50%が家庭学習を1日2時間以上する。	○教員の進路勉強会なども実施（進路判定会への1・2年担任の参加を可能に）する。 ○学習・部活動について、メリハリのある生活ができるように、継続的に指導する。 ○今年度も年間予定表に従って週明けテストを実施する。			
3. 部活動などの教育活動の振興	○個々の能力や適性を発揮し、多くの部活動が全国大会等で活躍することで、学校の活力を高める。	○全国大会出場 運動部24名 文化部50名 ○外部指導者委嘱 運動部9名 文化部5名	○全国大会へ100人以上の生徒が出場する。 ○部活動を通じて集団意識が高まる。 ○多くの部活動が活躍することで、学校・生徒の活力が高まる。	○大会の結果のみではなく、授業への取組みや部室清掃への取組みなど、学校生活全般にわたって働きかけ、成長を望む必要がある。 ○施設・設備の充実や外部指導者の招聘により、部活動にしっかりと取り組める環境づくりをより一層推し進める。			
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図る。 ※教科でつながる「鳥取発スクラム教育」 ※スクールプロジェクト（小学生との交流事業） ※中高連携学力向上プロジェクト	○今年度より英語教育で新たなスクラム教育を実施 ○10月の授業参観週間に各教科で研究授業を実施 ○中学3年生夏季学習会を4日間実施(71名参加) 「高校教員の解説は分かりやすかった」 91.0% ○中学1年生土曜日学習会を5～12月に計8回実施（163名参加）、教材を中高の教員合同で検討「学習習慣が身についた」67.5% 「学習意欲が高まった」63.4% ○スクールプロジェクトを9～12月に計9回実施～小学生32名、高校生延べ153名、大学生4名参加…小学生とうまくコミュニケーションがとれ、楽しく、来年もやりたいという高校生が多かった。 ○鳥取大学教官による出前授業を理科で3日実施 ○外部講師による英語多読授業を2回実施 ○10月に2年生が大学・専門学校を訪問～大学訪問で卒業生の話は特に生徒の心に響いているようであった。 ○11月に1年生が地元企業を訪問（7社）。	○中高で連携した学力向上の取組（英語多読等）が充実する。 ○中高の教員の授業交流・研究交流が充実する。 ○小学生との交流事業への参加者が小学生・高校生とも増加するとともに、内容が充実する。 ○鳥根大学・鳥取大学・鳥取環境大学をはじめとする大学との連携（出前講座・職員研究等）が深まる。	○進路目標を早めに決めさせるように今後も大学訪問や企業訪問を実施する。 ○夏休み中のオープンキャンパスへの参加を広く生徒に呼びかける。 ○今年度から授業内に英語多読の授業を実施するので、できるだけ多くの生徒が興味を持って選択してくれるように年度当初から多読授業の魅力を伝える。			
	○P T A、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	○書道部・吹奏楽部が地域イベントに参加しパフォーマンスや演奏を披露した。 ○運動部を中心に、P T Aと連携して地域の清掃活動を行った。（112名参加） ○P T Aの協力をいただき、学校行事や部活動の大会成績等をホームページへ随時掲載できた。	○地域活動に積極的に参加することで、地域からの信頼を得ている。 ○P T A等と連携した活動が充実する。 ○活動の状況を随時ホームページに掲載・更新し、取組を地域住民に積極的に発信する。	○今後も生徒に呼びかけ、合同清掃活動への参加者を増やす。 ○学校のホームページに基本情報を掲載する。 ○校外に向けての情報発信を充実させるための委員会等の設置を検討する。 ○ホームページの更新のために部活動・学年・分掌等が協力し、積極的に情報提供をする。			

評価基準 A：十分達成〔90%以上〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔50%程度〕 E：目標・方策の見直し〔40%以下〕